

9.18 オンライン学習会ご案内

汚染土再生利用は安全なのか？ 実証事業の実態を暴く！

中間貯蔵施設内で、汚染土を使った模擬道路の実証事業が実施されています。(写真参照)
その施工工事中に、空間線量率が $1\mu\text{Sv/h}$ 上昇したことが資料<中間貯蔵情報サイト>「除去土壌の再生利用について」から判明しました。

この8月に列島を襲った台風10号により、都心では1時間に100mmの雨が降り、新宿御苑の実証事業予定地の周囲が膝丈まで水没しました。甚大な被害にも関わらず、環境省は10日経った本会との面談当日にも状況確認すらしていないことが判明しました。

環境省は再生利用に「全責任を負う」としていますが、このような無責任体制が実態です。
自然災害による汚染土流出は避けようがなく、人の管理が及ばないことは明かです。(写真参照)
環境省は安全性を強調していますが、その確認方法には疑問な点が多くあります。
一緒に検証し、声を上げていきましょう。



中間貯蔵施設内での実証事業風景
法面部の覆土作業状況 環境省 HP
(撮影日 2023 年 6 月 13 日)



茨城県常総市水害、2015年9月14日～2016年5月撮影(まさのあつこ)

災害現場の現実
天変地異の多い日本
で、インフラに使う土
壌を100年管理する
のは無理では？



茨城県常総市水害からの復旧工事、2015年9月14日～2016年5月撮影(まさのあつこ)

土木作業現場で
8000Bq/kgの
汚染土壌による
内部被ばくから
作業員や地域住民を
守るのは
不可能では？

9月18日(水)19時～ 21時 オンライン学習会プログラム

1. 新宿御苑の水没問題について: 沢居恵美さん(新宿区議会議員)
台風10号による新宿御苑の水没について、この間明らかになったことをお話いただきます。
2. 放射能汚染廃棄物事故における環境省対応について: 和田央子(放射能拡散に反対する会/放射能ゴミ焼却を考えるふくしま連絡会)
原発事故以来、福島県内各地の放射能汚染廃棄物処理現場で様々な事故が起きています。
今後の教訓とするため、これまでの環境省の対応を振り返ります。
3. 粉じん規制について: 青木一政(放射能拡散に反対する会/フクロウの会事務局長/市民放射能監視センター(ちくりん舎))
汚染土再生利用のための工事中の土壌粉じんの放射能濃度規制は 30Bq/m^3 であることが明らかになりました。これは放射能ごみ焼却炉の煙突出口の基準と同じです。このことがどんなに危険なレベルか具体的にお話しします。
4. 汚染土上での空間線量規制について: 瀬川嘉之(放射能拡散に反対する会/高木学校)
8000 Bq/kg 以下でも空間線量率が跳ね上がり、年間の線量基準を超えてきます。にもかかわらず、実施する際には空間線量率さえ測らずにすませようとしているのです。

お問合せ先 : stopshokyakuf@yahoo.co.jp

無料です

ご参加はこちらから <https://forms.gle/iiSMoDPtCtGgsnqj8>

主催 : 放射能拡散に反対する会



参加お申込みは
こちらからも
どうぞ